



令和3年1月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

## 伊豆東岸定置網 2021年上半期漁海況予報

伊豆分場では神奈川県水産技術センターと共同で、2021年上半期(1~6月)の漁海況を予測しました。近年、伊豆東岸定置網の水揚量は減少傾向ですが、マサバ、マイワシ、ブリ資源は高水準であり、海況次第ではまとまった来遊が期待できます。一方、マアジ、カタクチイワシ資源は低水準であるため、来遊量は低調な前年並みと予測しました。また、ゴマサバ資源も低水準ですが、伊豆東岸定置網における近年の水揚量は横ばいで推移しているため、来遊量は前年並みと予測しました。ただし、昨年秋頃から若齢魚の割合が増加するなど漁獲動向に変化が見られ始めています。黒潮は2017年9月以降、大蛇行流路が継続しています。昨年10~11月には一時的に大蛇行が解消しましたが、現在は再び大蛇行流路となっており、これが継続する見通しです。

### 伊豆東岸定置網における2021年上半期の漁海況

海況	黒潮は期間を通してA型で推移する 沿岸水温は「前年並み」で推移し、暖水波及時に「高め」~「極めて高め」
マアジ	来遊量は前年並み 魚体は尾叉長15~20cm
マサバ	来遊量は前年を上回る 魚体は尾叉長30~35cm
ゴマサバ	来遊量は前年並み 魚体は尾叉長30~35cmおよび25~30cm
マイワシ	来遊量は前年並み 魚体は被鱗体長13~15cmおよび20cm前後
カタクチイワシ	来遊量は前年並み 魚体は被鱗体長9~11cm
ブリ	来遊量は前年並み ぶり・わらさ銘柄主体

### 土肥でテングサ施肥試験

近年、伊豆西岸ではテングサの着生量減少が顕著になっており、土肥地区ではテングサ漁場の保全活動として母藻投入などを実施してきました。着生量減少の原因としては、黒潮大蛇行の継続による栄養不足も考えられるため、当场では施肥(肥料の投入)によるテングサの生育促進試験を開始しました。今後、春に向けてはテングサが生長していく時期に当たるため、生育状況の調査を継続していきます。



↑試験区の様子  
(左:テングサ、右:肥料を入れたボトル)

### 新たな水産物流通体制整備に向けて

西伊豆町の産地直売所「はんばた市場」では、県と協力して西伊豆周辺地域の水産物を漁業者から買取り、それを県中部等の新規販路へ出荷する体制の整備を進めています。その中で、活魚や脱血処理をした魚は高く買取ることや出荷の際に神経めなどの高鮮度処理を施して品質・単価を上げるといった取組を進めています。これらの取り組みが整備されることで西伊豆地域の漁業者の所得向上や水産物の活性化に繋がることが期待されます。



↑神経め処理技術を学ぶはんばた市場担当者

**1月の予定** ●キンメダイの親魚採集を行います ●1/18に漁業士認定式が県庁で行われます ●1/22に下田認定こども園の園児が分場を見学します ●施肥によるテングサの生育促進試験を行います ●西伊豆地域の水産物流通効率化試験を行います

連絡先: 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話: 0558-22-0835

アドレス: [suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp) ホームページ: <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。